

課 程	博士課程前期課程	コース	経済学専修コース
科 目	専門科目		
出題部門	財政学・金融論部門	問 題	問題 1

出題の意図	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金融政策が単に「金利を上げ下げする政策」ではなく、金利・資産価格・為替・銀行貸出・期待形成などを通じて実体経済に波及する仕組みを理解しているかを確認する。 ・ 中央銀行の政策手段と、消費・投資・物価・雇用・輸出入といった実体経済との関係を説明できるかを問う。 ・ それら実体経済と金融市場がどのようにつながっているかを、因果関係に沿って整理する力を見る。
解答例 (解答のポイント)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金融政策の波及経路とは、中央銀行の政策変更が金融市場を通じて実体経済に影響する過程を説明する。 ・ 政策金利の変更などにより、短期金利や長期金利が変化することを述べる。 ・ 金利低下や金利上昇が企業の借入コストや設備投資あるいは家計の借り入れや消費へどのように影響するかを説明する。 ・ 金融政策と貨幣供給量の関係について論じる。 ・ 株価や不動産価格などの資産価格の変動による資産効果を通じて消費や投資がどのような影響を受けるかについて述べる。 ・ 金利の変動は為替レートにどのように影響し、企業の収益や輸出入にどのような影響を与えるかを説明する。 ・ 銀行の貸出姿勢の変化が、信用供給などの変化を通じて企業や家計へどのような影響を与えるかについて説明する。 ・ 中央銀行の政策姿勢は人々の期待にも影響し、将来の景気や物価に対する見方を変える可能性について論ずる。 ・ これらの経路を通じて、総需要が変化し、最終的に生産・雇用・物価に影響が及ぶ可能性について説明する。 ・ 金融政策の実体経済への波及にはタイムラグがあり、経済状況や金融機関の行動、企業・家計の期待によって効果の大きさは変わる可能性について論じる。

課 程	博士課程前期課程	コース	経済学専修コース
科 目	専門科目		
出題部門	財政学・金融論部門	問 題	問題2

出題の意図	<p>まず（１）で現代的租税原則とされる公平、中立、簡素の３つの原則について理解しているか否かを確認するものである。さらに、国際的整合性はボーダーレス取引が増えた現代においてどのように課税の中立性を維持するかを問うものである。</p> <p>（２）は公平性を重視する所得税と法人税の納税義務者を理解しているかを確認する問いである。</p>
解答例 (解答のポイント)	<p>（１）の解答においては、現代的租税原則である①公平②中立③簡素についてそれぞれの概念とそれらを実現すべき実際の税目を所得課税、資産課税、消費課税に区分して述べる。すべてを満足する税目が難しいことからそれぞれの税目のメリットとデメリットを述べ、いわゆるタックスミックスを説明する。特に、所得課税は公平性を、消費課税は中立性を実現する最適な課税制度であることを解き、したがってこれらの税の組み合わせ（タックスミックス）が制度として重要であることを述べる。その際には、各国でそれらの税の税率比率が異なることで各国の税負担に対する考え方の違いがあることを述べる。</p> <p>（２）では、所得税においては居住者、非居住者の概念を説明し、法人税では内国法人、外国法人の概念を述べる。さらに、法人税にあつては普通法人や公益法人など５つの法人種類ごとにどのように課税標準が異なるかを説明する。</p>